

第29回

超高齢化社会を迎えるための
エクステリア対策 ～インタビュー編～

- 介護を交えたエクステリア提案が増えてきた
- 今後、さらに介護エクステリアのニーズが増えてきそう
- 介護エクステリアの提案力をもっとつけたい
- 介護・リハビリテーションのプロの視点からみたエクステリアとは？

前号からスタートしました「介護エクステリア」を

テーマに、今月からは静岡

県浜松市にある保健医療福

祉の総合大学『聖隷クリス

トファー大学』の助教であり、作業療法士でもある中島と

もみ先生のインタビューをお送りしていきます。

家族の誰かを介護するにあたり、またはいずれ来る自分の老後に備えてお住まいを介護しやすい設計にリフォーム・新築する方も非常に多い中、エクステリアにできることはもっとたくさんあるのではないのでしょうか。これまでに介護用エクステリアを設計したことのある販店さんも多いとは思いますが、介護のプロフェッショナルから見た現在のエクステリアはどのように見えているのか、具体的なお話を色々とうかがってきました。

話し手

聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部

作業療法学科助教 中島ともみ先生

聞き手 (株)クラッソーネ「エクステリアの匠」

事業部長 加納 拓



(株)クラッソーネ
「エクステリアの匠」事業部長
加納拓

著者プロフィール

一級エクステリアプランナー。大手ハウスメーカーのトップセールス営業として8年間勤務し、二級建築士の資格を取得。2013年5月に(株)クラッソーネに入社し、同社が運営する優良エクステリア業者紹介サービス「エクステリアの匠」の事業部長に就任。現在はエクステリアWEBマーケティングのプロフェッショナルとして700社以上の提携業者サポートと、年間2000件のエンドユーザー対応を行っている。データや数字から導き出される的確な判断は、業界関係者から厚い信頼を寄せられている。

今回のテーマ

① 一般的な介護住宅・介護リフォームにおけるエクステリア

◆作業療法とは？

「まず基本的なことから質問させていただきたいのですが、リハビリなどよく耳にする「作業療法」というのは何でしょうか？」

中島 「作業療法」というのは、日



中島ともみ先生

常の様々な「作業」ができるようになるために、身体機能的にも精神的にも私たち作業療法士がアドバイス・サポートをしながらリハビリをすることです。「作業を使ってリハビリをする」「できない作業を工夫してできるようにする」のです。「作

業」は、手を使って行うことが多いので、手についてはかなり専門的に分析します。
—「作業」というと、具体的にどんなことでしょうか？

中島 家の中で言えば、例えば洗濯機から洗濯物をカゴに出す、それを持って干し場まで歩き、洗濯物を干すという作業や、食器とス

プーンを持って自分で食事をする、などのことですね。家の外で言えば、ポストから新聞や郵便物を取ってくるなどが「作業」と言えます。また、作業療法とは、ご本人が「どうしたいか」「どうするべきか」というヒアリングを個別にじっくり

行って精神的にサポートしていく面も非常に大きいという点が特徴の一つです。
◆ たったひとつのエクステリアによって変わってしまう人生

— これまでに経験されてきた場面で、エクステリアについて何か思うところはありますか？

前号のおさらい

「エクステリアと自宅介護」における

4つのポイント

- ① 一般的な介護住宅・介護リフォームにおけるエクステリア
- ② 「介護される側」だけでなく「介護する側」の存在
- ③ 建築の考え方は当たり前前のが介護の視点では異なる場合も
- ④ 介護とエクステリアに共通する考え方は「個別の事情に対応する」

今号から、これら4つのポイント別に分けて中島先生の具体的なお話を掲載していきたいと思えます。

中島 バリアフリー、ユニバーサルデザインという単語が広まり、生活空間における段差はかなり減ったとは思いますが。しかし、それでもたった数段の階段のために在宅介護を諦めた方もいらっしゃると思います。そのときは「たった数段の階段で家に帰れないなんて」ととても残念に思いました。

―たとえその階段を昇り切ったとしても、外出のたびにその難関を乗り越えなければならぬというのは、外に出たいという気持ちすら奪ってしまいますね。

中島 そうなんです。作業療法はその人らしい生活スタイルが実現するよう心のリハビリをしていくことも非常に重要です。せっかく「外に出て人に会いたい」「公園に散歩に行きたい」と思っていたのに、数段の階段のせいで「あんなに危険で大変な思いをしてまで外出したくない」という気持ちになってしまいました。

エクステリアひとつでその人の人生が社会的で楽しいものになるか、

家に引きこもってしまうかを大きく左右するということですね。

◆スロープ&手すりを設置すれば問題解決！・・・ではない！

―そのような事態に備えて、あらかじめスロープや手すり等を設置しておくという方も多くいらっしゃると思いますが、どうでしょうか？

中島 作業療法的に見れば、外出する際、必ずしも玄関からである必要はないんです。寝室から屋外までの距離や障害物はできるだけ少ないほうがいいので、リビングや寝室の窓から出てすぐに目の前を駐車場にしたり、車椅子を横付けできたりしたほうが、玄関のドアを開けて手すりにつかまってスロープを歩くよりずっと安全で効率的ですよ。

―「介護エクステリア＝スロープ&手すり」とつい考えてしまいがちですが、いかに安全に無駄なく外出できるかというのを合理的に判断していくのが大事なのです。(次号に続く)

View Points ----- 今回の対談から見えてきたこと

1. もっと密接にならなければならない「エクステリア」と「作業療法」
2. 数段の階段の有無だけで、暮らす場所も人生も変わってしまう
3. 「介護エクステリア＝スロープ&手すり」でないこともある

これから超高齢化社会がやってくる日本で、介護の場面を想定した家づくりは更に求められるようになります。これまでも「介護エクステリア」の提案はあったと思いますが、医療・リハビリの世界が進化を遂げています。その中でエクステリア業界もそれに伴って更なる進化と多様化するニーズへの対応も必要と迫られるようになるのではないのでしょうか。次回も中島先生へのインタビューをお送りします。